パース在住トライアスリートに聞く！

パースでのトライアスロン

パース在住の日本人トライアスリート、武田正俊さん。3月20日に行なわれた大会「West Australian Summer Triathlon Series #4 - Fremantle Triathlon」に密着させて頂き、後日ご自宅でお話を伺いました。

在パース日本人
トライアスリート

武田 正俊（たけだ まさとし）さん

体操のコーチとしてオーストラリア・パースに移住し、現在も地元の子ども達に体操を教えている。その傍ら、競技者としてトライアスロンに取り組み、これまでに参加したトライアスロンレースは600レース以上。現在も出場する大会では、ほぼ年代別1位を獲得している。

Q パースにはどのようなきっかけで来られたのですか？

A 高校と大学で体操競技に打ち込み、地元山梨県で体育教員をしていましたが、大学時代の友人がオーストラリアのパースにいるというきっかけで1983年、体操を教えるコーチとしてパースへ移住しました。現在も、週2日は体操教室のコーチをしています。

Q トライアスロンとの出会いは？

A 当時、体操のトレーニングのためにランニングをしていましたが、物足りなさを感じていた時、Fremantleで行なわれていたトライアスロンの世界レベルの大会を偶然、目にしました。その時、初めてトライアスロンのことを知り、1987年、33歳の時に自分もレースに初出場しました。今でも憶えています。スイムで後半、体力がなくなり、平泳ぎで泳ぎきりました。もちろん順位は最後の方で、それが悔しくてそれ以後、トライアスロンのトレーニングにも励むようになりました。

Q トライアスロンの魅力は？

A ゴールした時の達成感だと思います。私にとってトライアスロンは趣味ではなく、競技として、レースでは毎回真剣に勝ちにいきます。体格に関係なく平等に勝負できるところも面白いところですね。ただ、競技として真剣に取り組むもよし、健康維持など趣味として楽しむもよし、どちらのやり方でもリスペクトされているのが、トライアスロンのいいところだと思います。

Q 3種目のトライアスロンを練習するためのタイムマネジメントをお聞かせ下さい。

A 私の場合は2人の子どもの子育てもしていましたから、バイクはローラー台、ランはランニング・マシンを使って、家の中での練習でした。スイムは子ども達が学校に行っている間にしました。子ども達には、毎朝お弁当を作って、学校へ行っている間に家事を済ませ、帰宅したら夕飯を食べさせ、自分が教えていた体操教室に一緒に行き、子どもにも体操をやらせていました。その一日の流れの中で、かつ当時は年間約40レースほど出場していました。子どもを巻き添えにして出場するからには何か残さないと申し訳ないという思いと、レースの時は子どもが待っているから1秒でも早くゴールしようという思いが毎回のモチベーションにもなっていましたね。

Q その結果、偉業を成し得ていますね。

A 西オーストラリア州の年齢別で1992年から14年間、ランク1位をキープしました。

Q 今後のご自身の目指すところは？

A 自分の許容範囲をここまで、と決め付けないで続けていくことです。そして、生涯現役です。棺桶に足を突っ込むまでですかね。

Q これからトライアスロンを始めようとしている読者の方へメッセージを頂けますか？

A 「大変」というイメージがあるかもしれませんが、できるかできないかは、まずはやってみないとわかりません。自分で垣根を作らず、心をオープンにして飛び込んでみてください。きっと楽しいはずです。